創世記

*天地の創造

1
1 初めに、神は天地を[a]創造された。2 地は[b]混沌
であって、闇が[c]深淵の面にあり、神の霊が水の
面を動いていた。3 神は[d]言われた。
[e]「光あれ。」
こうして、光があった。4 神は光を見て、良しとさ
れた。神は光と闇を分け、5 [f]光を昼と呼び、闇を夜と
呼ばれた。夕べがあり、朝があった。第一の日である。
6 神は言われた。
「水の中に[g]大空あれ。水と水を分けよ。」
7 神は大空を造り、大空の下と[h]大空の上に水を分け
させられた。そのようになった。8 神は大空を天と呼
ばれた。夕べがあり、朝があった。第二の日である。
9 神は言われた。
「天の下の水は一つ所に集まれ。[i]乾いた所が現れ
よ。」
そのようになった。10 神は乾いた所を地と呼び、水
の集まった所を海と呼ばれた。神はこれを見て、良し
とされた。11 神は言われた。
[j]「地は草を芽生えさせよ。種を持つ草と、それぞれの

* ヨブ三八—三九章 詩八編 一〇四編 一四八編 箴八・二二—三一 イザ四〇・二六—三一 二マカ七・二八 シラ一六・二四—三〇、一八・一 ヨハ一・一—三 コロ一・一五—一七 ヘブ一・二、三
a 詩三三・六、一〇二・二六 イザ四二・五、四四・二四、四五・一八 シラ一六・二〇、四三・一五 ロマ一・二〇 ヘブ一一・三 黙四・一一
b エレ四・二三 シラ二四・三
c シラ二四・五、二九
d 詩三三・六、九 知九・一
e ヨハ八・一二 二コリ四・六
f ヨブ三六・二〇 イザ四五・七、六〇・一九
g ヨブ三七・一八 イザ四〇・二二 エゼ一・二二—二五 二ペト三・五
h 創七・一一
i ヨブ三八・八—一〇 詩二四・一、二、三三・七、九五・五 イザ五一・一〇 エレ五・二二 二ペト三・五
j 詩一〇四・一三 ヘブ六・七

種を持つ実をつける果樹を、地に芽生えさせよ。」
そのようになった。12 地は草を芽生えさせ、それぞ
れの種を持つ草と、それぞれの種を持つ実をつける木
を芽生えさせた。神はこれを見て、良しとされた。
13 夕べがあり、朝があった。第三の日である。
14 神は言われた。
「天の大空に[k]光る物があって、昼と夜を分け、[l]季節の
[m]しるし、日や年のしるしとなれ。15 天の大空に光る物
があって、地を照らせ。」
そのようになった。16 神は二つの[n]大きな光る物と星
を造り、大きな方に昼を治めさせ、小さな方に夜を治
めさせられた。17 神はそれらを[o]天の大空に置いて、地
を照らさせ、18 昼と夜を治めさせ、光と闇を分けさせ
られた。神はこれを見て、良しとされた。19 夕べがあ
り、朝があった。第四の日である。
20 神は言われた。
「生き物が水の中に群がれ。鳥は地の上、[p]天の大空の
面を飛べ。」
21 神は水に群がるもの、すなわち[q]大きな怪物、うご
めく生き物をそれぞれに、また、翼ある鳥をそれぞれ
に創造された。神はこれを見て、良しとされた。22 神
はそれらのものを祝福して言われた。
[r]「産めよ、増えよ、海の水に満ちよ。鳥は地の上に増

k 申四・一九 ヨブ二五・三、五 詩一九・二、七四・一六、一三六・七—九、一五〇・一 バル三・三三—三五
l 詩七四・一七、一〇四・一九
m イザ四〇・二六 エレ一〇・二、三一・三五 シラ三三・七—九、四三・一—一〇
n ヨブ三八・七 詩八・四、一三六・八、九
o エレ三三・二〇、二五
p ネヘ九・六 ヨブ一二・七—一二 詩一〇四・二五
q ヨブ四〇章 ヨナ二章
r 創八・一七、九・一、七 詩一一五・一六

えよ。」
23夕べがあり、朝があった。第五の日である。
24神は言われた。
「地は、それぞれの生き物を産み出せ。家畜、這うも
の、地の獣をそれぞれに産み出せ。」
そのようになった。25神はそれぞれの地の獣、それ
ぞれの家畜、それぞれの土を這うものを造られた。神
はこれを見て、良しとされた。26神は言われた。
「[a]我々にかたどり、[b]我々に似せて、人を造ろう。そし
て海の魚、空の鳥、家畜、地の獣、地を這うもの[c]すべ
てを支配させよう。」
27神は御自分に[d]かたどって人を創造された。
神にかたどって創造された。
[e]男と女に創造された。
28神は彼らを祝福して言われた。
「産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ。海の
魚、空の鳥、地の上を這う生き物をすべて支配せよ。」
29神は言われた。
「見よ、全地に生える、種を持つ草と種を持つ実をつ
ける木を、すべてあなたたちに与えよう。それがあな
たたちの[f]食べ物となる。30地の獣、空の鳥、地を這う
ものなど、すべて命あるものにはあらゆる[g]青草を食べ
させよう。」

a 創三・二二、一一・七　イザ六・八
b 創五・一、三、九・六　知二・二三　シラ一七・一四　一コリ一一・七
c 詩八・六、七　知九・二、一〇・二　ヤコ三・七
d 創九・六　一コリ一一・七　エフェ四・二四　コロ三・一〇　ヤコ三・九
e マタ一九・四　マコ一〇・六
f 創九・三、四　ヨブ三六・三一　詩一〇四・一四、一五、一三六・二五　使一四・一七
g ヨブ三八・四一　詩一四五・一五、一六、一四七・九

そのようになった。31神はお造りになったすべての
ものを御覧になった。見よ、それは[h]極めて良かった。
夕べがあり、朝があった。第六の日である。

2

1天地万物は完成された。2第七の日に、神は
御自分の仕事を完成され、第七の日に、神は御
自分の仕事を離れ、[i]安息なさった。3この日に神はす
べての創造の仕事を離れ、安息なさったので、第七の
日を神は祝福し、[j]聖別された。
4これが天地創造の由来である。
主なる神が地と天を造られたとき、5地上にはまだ
野の木も、野の草も生えていなかった。主なる神が地
上に[k]雨をお送りにならなかったからである。また土を
耕す人もいなかった。
6しかし、水が地下から湧き出て、土の面をすべて
潤した。7主なる神は、土（アダマ）の塵で[l]人（アダ
ム）を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられた。
人はこうして[m]生きる者となった。8主なる神は、東の
方のエデンに[n]園を設け、自ら形づくった人をそこに置
かれた。9主なる神は、見るからに好ましく、食べる
に良いものをもたらすあらゆる木を地に生えいでさ
せ、また園の中央には、[o]命の木と[p]善悪の知識の木を生
えいでさせられた。
10エデンから一つの[q]川が流れ出ていた。園を潤し、

h 詩一〇四・二四　シラ三九・一六、三三　一テモ四・四
i 出二〇・八〜一一、三一・一七　ヘブ四・四、一〇
j シラ三三・九
k 詩六五・一〇、一一　エレ [illegible]
l 創三・一九　知一五・八、一一　シラ三三・一〇、四九・一六
m 一コリ一五・四五
n 創一三・一〇　イザ五一・三　エゼ二八・一三、三一・八、九、一六
o 創三・二二　箴三・一八　黙二・七、二二・二、一四
p 創三・五、二二
q 詩四六・五　黙二二・一、二

そこで分かれて、四つの川となっていた。11第一の川
の名は[a]ピションで、金を産出する[b]ハビラ地方全域を
巡っていた。12その金は良質であり、そこではまた、
[c]琥珀の類やラピス・ラズリも産出した。13第二の川の
名は[d]ギホンで、[e]クシュ地方全域を巡っていた。14第三
の川の名は[f]チグリスで、アシュルの東の方を流れてお
り、第四の川は[g]ユーフラテスであった。
15主なる神は人を連れて来て、エデンの園に住まわ
せ、人がそこを耕し、守るようにされた。16主なる神
は人に命じて言われた。
「園のすべての木から取って食べなさい。17ただし、
善悪の知識の木からは、決して食べてはならない。食
べると[h]必ず死んでしまう。」
18主なる神は言われた。
「人が独りでいるのは良くない。彼に合う[i]助ける者
を造ろう。」
19主なる神は、野のあらゆる獣、空のあらゆる鳥を
[j]土で形づくり、人のところへ持って来て、人がそれぞ
れをどう呼ぶか見ておられた。人が呼ぶと、それはす
べて、生き物の名となった。20人はあらゆる家畜、空
の鳥、野のあらゆる獣に名を付けたが、自分に合う助
ける者は見つけることができなかった。
21主なる神はそこで、人を[k]深い眠りに落とされた。

a シラ二四・二五
b 創一〇・七、二五・一八　代上一・九
c 民一一・七
d シラ二四・二七
e 創一〇・六―八　王下一九・九　代上一・八―一〇　イザ一八・一、二〇・三―五
f ダニ一〇・四　シラ二四・二五
g 創一五・一八　シラ二四・二六
h 創三・三、[illegible]　申三〇・一五、一九、二〇　知一・一二―一五　ロマ六・二三
i トビ八・六　一コリ一一・九
j 創一・二四、二五　詩八・五
k 創一五・一二

人が眠り込むと、あばら骨の一部を抜き取り、その跡
を肉でふさがれた。22そして、人から抜き取ったあば
ら骨で[l]女を造り上げられた。主なる神が彼女を人のと
ころへ連れて来られると、23人は言った。
「ついに、これこそ
わたしの骨の骨
わたしの[m]肉の肉。
これをこそ、女（イシャー）と呼ぼう
まさに、男（イシュ）から取られたものだから。」
24こういうわけで、[n]男は父母を離れて女と結ばれ、
二人は一体となる。
25人と妻は二人とも[o]裸であったが、恥ずかしがりは
しなかった。

3

*蛇の誘惑

1主なる神が造られた野の生き物のうちで、最
も賢いのは[p]蛇であった。蛇は女に言った。
「園のどの木からも食べてはいけない、などと神は
言われたのか。」
2女は蛇に答えた。
「わたしたちは園の木の果実を食べてもよいのです。
3でも、園の中央に生えている木の果実だけは、食べ
てはいけない、触れてもいけない、死んではいけない

l 箴一八・二二　一コリ一一・八、九　一テモ二・一三　ヘブ一三・四
m 創二九・一四　士九・二　サム下五・一
n 雅二・一六、六・三　マラ二・一四、一五　シラ二三・一五、一六　マタ一九・五　マコ一〇・七、八　一コリ六・一六　エフェ五・三一
o 創三・七、一〇、一一　イザ四七・三
* 知二・二四　シラ二五・二四　ヨハ八・四四　ロマ五・一二―一四　黙一二・九
p マタ一〇・一六　二コリ一一・三　黙一二・九、二〇・二

から、と神様はおっしゃいました。」
4蛇は女に言った。
「[a]決して死ぬことはない。5それを食べると、目が開
け、神のように[b]善悪を知るものとなることを神はご存
じなのだ。」
6女が見ると、その木はいかにもおいしそうで、目
を引き付け、賢くなるように唆していた。女は実を
取って食べ、一緒にいた男にも渡したので、彼も[c]食べ
た。7二人の目は開け、自分たちが[d]裸であることを知
り、二人はいちじくの葉をつづり合わせ、腰を覆うも
のとした。
8その日、風の吹くころ、主なる神が園の中を[e]歩く
音が聞こえてきた。アダムと女が、主なる神の顔を避
けて、園の木の間に[f]隠れると、9主なる神はアダムを
呼ばれた。
「[g]どこにいるのか。」
10彼は答えた。
「あなたの足音が園の中に聞こえたので、[h]恐ろしく
なり、隠れております。わたしは裸ですから。」
11神は言われた。
「お前が[i]裸であることを誰が告げたのか。取って食
べるなと命じた木から食べたのか。」
12[j]アダムは答えた。

a 二コリ一一・三　一テモ二・一四
b イザ一四・一四　エゼ二八・二、一二—一七　ダニ一一・三六　シラ二五・二四　二テサ二・四
c ロマ五・一二—一九　一テモ二・一四　ヤコ一・一四、一五　一ヨハ二・一六
d イザ四七・三　哀一・八
e 創一八・三三　レビ二六・一二　申二三・一五　サム下五・二四
f ヨブ三一・三三　詩一三九・一—一二　ホセ一〇・八　アモ九・三　黙六・一五—一七
g 創四・九、一八・九　エレ二三・二四
h 出二〇・一八、一九　申五・二五　ヨブ二三・一五
i イザ三〇・三　黙三・一八、一六・一五
j ヨブ三一・三三　箴二八・一三　ヤコ一・一三

「あなたがわたしと共にいるようにしてくださった
女が、木から取って与えたので、食べました。」
13主なる神は女に向かって言われた。
「何ということをしたのか。」
女は答えた。
「[k]蛇がだましたので、食べてしまいました。」
14主なる神は、蛇に向かって言われた。
「このようなことをしたお前は
あらゆる家畜、あらゆる野の獣の中で
[l]呪われるものとなった。
お前は、生涯這いまわり、[m]塵を食らう。
15お前と女、お前の子孫と女の子孫の間に
わたしは敵意を置く。
彼はお前の頭を砕き
お前は彼のかかとを[n]砕く。」
16神は女に向かって言われた。
「お前のはらみの苦しみを大きなものにする。
お前は、[o]苦しんで子を産む。
お前は男を求め
[p]彼はお前を支配する。」
17神はアダムに向かって言われた。
「お前は女の声に従い
取って食べるなと命じた木から食べた。

k 王上二二・二五　ロマ七・一一　二コリ一一・三　一テモ二・一四
l 申二八・一五—二〇
m イザ六五・二五　ミカ七・一七
n ロマ一六・二〇
o 創三五・一六—一八　ミカ四・一〇　ヨハ一六・二一　ロマ八・二二　一テモ二・一五　黙一二・二
p シラ二五・二六　一コリ一四・三四

お前のゆえに、土は[a]呪われるものとなった。
お前は、生涯食べ物を得ようと[b]苦しむ。
18 お前に対して
土は茨とあざみを生えいでさせる
野の草を食べようとするお前に。
19 お前は顔に汗を流してパンを得る
土に返るときまで。
お前がそこから[c]取られた土に。
塵にすぎないお前は[d]塵に返る。」

20 アダムは女を[e]エバ（命）と名付けた。彼女がすべ
て命あるものの母となったからである。21 主なる神
は、アダムと女に皮の衣を作って着せられた。
22 主なる神は言われた。
「人は我々の一人のように、善悪を知る者となった。
今は、手を伸ばして命の木からも取って食べ、永遠に
生きる者となるおそれがある。」
23 主なる神は、彼を[f]エデンの園から追い出し、彼に、
自分がそこから取られた土を耕させることにされた。
24 こうしてアダムを追放し、命の木に至る道を守るた
めに、エデンの園の東に[g]ケルビムと、きらめく[h]剣の炎
を置かれた。

---

a 創五・二九 ホセ四・三 ロマ五・一二
b ヨブ五・七、一四・一 コヘ一・一三、二・二三
c 創二・七 ヨブ四・一九、一〇・九 シラ一六・三〇、一七・一
d ヨブ一・二一、三四・一五 詩九〇・三、一〇四・二九 コヘ三・二〇、一二・七 知一五・八 一コリ一五・二二、四七
e 二コリ一一・三 一テモ二・一三
f エゼ三一・一一
g 出二五・一八―二二 エゼ一〇・一―二〇、二八・一四―一六
h ヨブ四〇・一九 黙二二・一四

聖書 新共同訳

引照つき

引照監修　共同訳聖書委員会

NIO44　ISBN4-8202-1242-7
NIO49S　ISBN4-8202-1244-3

Published by Japan Bible Society, Tokyo
BIBLE, The New Interconfessional Translation, with REF.
Cat. No. NIO44 JBS-ed. 1-3,000-1998

....

Cum approbatione ecclesiastica

Printed in Japan
印刷・三省堂印刷　製本・星共社

発行所

日本聖書協会

東京都中央区銀座四丁目５番１号
1998